

2019年

ジアス JIAS日本国際美術家協会 機関紙 Vol.44

Japan International Artists Society



ジャン・マリ・ザッキ氏勲章受章記念特集	-----P2
JIAS2018年度総会報告	-----P4
JIAS会員紹介～合縁奇縁～	-----P5
国際作家探訪記 サロン・ドトーヌ作家紹介	-----P6
日本・フランス現代美術世界展・報告	-----P8
欧米国際公募 スペイン美術賞展・報告	-----P10
パリ国際サロン・2月告知	-----P12
フィンランド美術賞展・5月告知	-----P13
ル・サロン 2018・報告	-----P15
サロン・ドトーヌ 2018・報告	-----P15
お知らせ	-----P16

JIASは世界をリードする国際美術家集団を目指します

JIAS協会のシンボルである「ロゴマーク(上記)」は故バロン・ルヌアール*氏が、世界の画壇と対等に活動し
共に画壇を盛り上げるJIASの理念に敬意を表しデザイン、1997年に贈呈されたものです

*Baron-Renouard (1918-2009) フランスにおける現代抽象作家の第一人者。JIAS名誉顧問、サロン・ドトーヌ絵画部門長はじめ、ユネスコ国際造形美術評議会永世会長として芸術の物質的・精神的保護に携わる。国立近代美術館(パリ、東京)などに作品所蔵

ジャン・マリ・ザッキ氏



「フランス芸術文化勲章 シュヴァリエ」

シュヴァリエ

受章記念特集

2018年10月受章

Monsieur Zacchi, 「フランス芸術文化勲章 シュヴァリエ」受章 おめでとう!



フランス文化省が所在するパレ・ロワイヤル

2018年10月、当協会フランス側名誉顧問ジャン・マリ・ザッキ氏が「フランス芸術文化勲章 シュヴァリエ*1」を受章されました。本章は1957年に創設、フランス文化省が国内での芸術的功績やフランス文化の紹介・普及の功績者を対象に授章するもので、たいへん名誉ある勲章です。協会を代表し、この場をかりて心よりお祝い申し上げると共に、氏の近年の受章は2007年「レジオン・ドヌール勲章シュヴァリエ*2」に続き2回目となりますことを付け加えさせていただきます。

この度のこの受章をうけ、ザッキ氏のこれまでを談話をご紹介します。

*1—フランス芸術文化勲章 シュヴァリエ（騎士）—フランス共和国文化通信省より「芸術・文学の領域での創造、もしくはこれらのフランスや世界での普及に傑出した功績のあった人物」に授与される。

*2—レジオン・ドヌール勲章 シュヴァリエ（騎士）—ナポレオン・ボナパルトによって制定されたフランスの栄典制度。

「突然降ってくる成功はない -ジャン・マリ・ザッキ」

1944年、ナポレオンの生誕地、フランス・コルシカ島で生まれた
氏は幼少期より軍事の父親について世界各地を見聞する機会に
恵まれた。

パリに定住後、ザッキ少年の旺盛な探求心は留まることを知らず、
パリ中に溢れるあらゆる芸術作品に注がれることとなる。そして、
その時から「描く」ことが日課となった。まずは、クラシックな技法
で大家らの作品を模倣し、素描し続けた。

19歳の時初めて《ル・サロン》(フランス芸術家協会主催公募展)に挑戦した。結果は入選だった。このサロン(=ル・サロン)への入選をきっかけに、サロン作家人生がスタートする。

その後、世界で最も知られるファッショングランプリ『ココ・シャネル』にて6~7年程、装飾デザイナーとして多忙な時期を過ごす。労働としての「仕事」は学ぶものも多かったが、決して楽でもなかった。
が、それでも仕事の後に7~8時間、寝る間を惜しんで描き続けた。



1966年

1984年サロン・ドトーヌにて

「公募展は自身を確認するのに最適」

ル・サロン以外にも《サロン・ドトーヌ》や《コンバレゾン》、《サロン・ヴィオレ》など数々の名だたる公募展に挑戦し、出品し続けた。

「特に公募展は自身(作品)のポジションを確認するのに最適。
どのサロンでも刺激をうけたし、学ぶもの多かった。」
と氏は楽しそうに当時を振り返る。



ザッキ氏近影。フランス芸術文化勲章を胸に。

「最初に作品を買っていただいた時の事は今でも憶えている。それまで価格をつけたことがなかったから、リサーチしたり、考えたり…。相手の方はスイス人だった。」

27~28歳の頃、仕事を辞め、プロ画家を生業とすることを決意する。
「画家になってから55年、今でも描くことへの情熱は変わらない。
年々、よりよく!を心掛けている。」

「手と筆が一体となるまで、描き続ける....」

プロ画家として50年近く描き続けてきた現在でも、年に10展ほどの
展覧会に新作で挑む。互いに信望を寄せるギャラリーも多数存在し、
勢力的に年4~5回個展を開催する。

「身体が勝手に反応して、まるで手と筆が一体となるまで継続して描
き続けることが重要だと、私は思う。今回の名誉ある受章も、突然降っ



2014年「ル・サロン」会場グラン・パリにて、中央に特別展示されるザッキ氏の作品

てきたのではない。ただ、描く事と描く作家達が好きで、興味と熱
意をもって続けてきただけ。」と優しく微笑んだ。

「全ての作品の中に残したものを感じてもらいたい」

ザッキ氏は座右の銘とする《葛飾北斎》のこの言葉をもって、我々に
気づきを与えてくれる。

73歳にして禽獸虫魚の骨格、草木の出生を悟り、

86歳にして(その腕は)ますます進み、

90歳にして奥意を極め、

101歳にして神妙ならん。

110歳にして、一点一格が生きるがごとくならん。

そして、こう続ける。

「イメージの自由、発想の自由、投影の自由を、私は自分の全ての
作品の中に残す。表現し、夢想する可能性の自由を。そして光、大
気、情緒を感じてもらいたい。」

今回の受章が、早くからフランス画壇で中心的役割を担い、サロン
や国内外の垣根を超えたアートの交流、発掘、指導に並々ならぬ意
欲と熱意を注いだ結果がもたらしたものと改めて確信した。

(談話:2018年12月)



Arbres et falaises 8F 46x38cm

作家の詩魂が奏でる不思議な靈氣と靈色

ザッキの「樹魂」「樹並」「花束」と描く対象は
異なるものの、共通して流れる表現の妙美とは、
快く摩訶不思議な「靈氣と靈色」(ザッキと私は
共にこれを「幻影」と呼ぶが)を漂わせる作風で、
高い審美眼のコレクターを魅了して止まない
である。

「ル・サロン 40周年記念画集」より
JIAS 初代会長 馬郡俊文 寄稿

«ザッキ氏の数々の功労・功績多数»

サロン教育功労賞受賞 / フランス国防省海軍および陸軍公認作家

ル・サロン会長を経て名誉会長、サロン・ビィオレ副会長、会長を経て名誉会長、サロン・ソシエテ・ナショナル・オルティキユルチュール展
芸術セクション美術展選考委員、国内外の記者や評論家、芸術家で構成される協会「A.J.E.A.F.O.M.」運営委員 (ほか)



アンヴアリッド「荣誉の間」にてル・ポルニ将軍から国家厚労省を授与される氏 (右)



ザッキ氏のご自宅に飾られていた勲章・メダルの一部の紹介

*1: パリ市メダル (Médaille de la Ville de Paris)

*2: レジオン・ドヌール勲章 (L'Ordre National de la Légion d'Honneur) シュヴァリエ (騎士)

*3: フランス国家功労勲章 (L'Ordre national du Mérite) シュバリー (騎士)

*4: フランス農事功労章 (L'Ordre du Mérite agricole)

*5: フランス芸術文化勲章 (L'Ordre des Arts et des Lettres) シュヴァリエ (騎士)



「ムッシュ ザッキ、榮えある受章おめでとうございます。まるで自分のことのように嬉しく思います。これからも我々“芸術家”的な目標であってください。」

ザッキ氏がフランス国内はもとより国境なき芸術活動に賛同し、積極的に参加し、大いなる探求心をもって新たな作品に挑み続ける姿勢には、常に敬意を表します。氏の新作を拝見した時も同様です。今回の氏の受章を良い刺激とし、会員の皆さまには、改めてお伝えしたい。「今後もより良い作品を生み出し、一丸となり、世界中でこれまで重ねてきた実績をさらに継続し、JIAS が、そして皆さまが世界的に認められるような存在を目指そう」と。

JIAS / 欧州美術クラブ 代表 馬郡文平

JIAS日本国際美術家協会 2018年度総会報告

日時：2018年8月8日（水）
会場：国立新美術館 研修室（東京都港区六本木）



国立新美術館内の「研修室」にて

議長
謹んで船田春光女史、副議長に別府忠男氏が選出

JIAS代表馬郡文平、欧州美術クラブ会長馬郡文良



JIAS海外名誉会長のジャン・マリ・ザッキ氏



佐藤氏にかわり新就任した編集人 坂本龍彦氏

特別参加したJIAS 海外名誉会員のジャン・マリ・ザッキ氏より、以下のように語られた。「JIAS の新旧会員がこうして総会を通して集う事を非常に嬉しいと思う。私が19歳で出会い、かつて会長をし現在名誉会長を務めるフランスの『ル・サロン』でも全く同じように総会が開かれ、会員同士が会の発展という課題について討議します。私は作家同士の生活を共有できる総会というものが非常に楽しみです。JIAS 創設者馬郡俊文氏と、ル・サロンの会場で出会い、熱く語り合ったその当時と同じようにこの会が力と熱意を持ち続けている事、皆のパワーがずっと継続し発展していくと信じています。」馬郡文平より、「初代代表も常に日本の美術協会のあり方を問っていた。JIAS はアートを愛する国際的視野をもった会員が上下関係なくフラットで、互いに刺激を与えながら制作に没頭し、発表

その他、会員からの意見など

- ◆自然災害が起るとアートは次の次になる中でも、自ら出品し集いたいと思えるJIASのような会は大切にすべき。
- ◆SNSで事務局が海外展でもリアルタイムな情報をアップしているのは効果的
- ◆海外でメジャーではない都市で展覧会を開催する事で、現地に行き難く、しっかりと広報がなされているかと不安だと言われたが、自分はイベントにも参加し、初日には現地メディアも広報していた。長期の広報は海外では難しいが、街で出会った市民からも関心が寄せられたり、多くの親交が生まれた。事務局はSNSでもリアルに発信しているので、今後も国内外に向け継続しあわせたい。

Report 会員レポート 「2018年度 JIAS総会に参加して」

総会は台風の大霖の中行われました。スムーズに進行して、ご苦労してくださいました皆様に感謝でございます。私自身も会員である以上「JIAS」に対して意識をもっと高めていかなければと思いました。それと常々感じていたことですが、「日本・フランス現代美術世界展」の展示の仕方については心優しい気配りのある展示だと感じております。これからも「会」の発展に期待します。

JIAS会員 宝闇 和子



初参加した3年前の印象は、議長の言葉を皆が真剣に傾聴し、厳かで威厳のある雰囲気が、まるで外国映画に出てくるようでした。今回は大型台風上陸となり開催を心配していましたが、30人あまりが集まり、アクティビティで忌憚のない意見交換が行われました。「災害に見舞われたり、事情があって制作ができなくなる時もあると思う。今日もこのような台風の中、それでも皆がここに集まつたことは大変意味があったと思う」という馬郡代表の熱い言葉が印象深かったです。一方、先日2018年の漢字は【災】と発表され、本当に台風、地震と自然災害と胸が苦しくなるような一年でしたが、JIASは作家同士、横の繋がりや縦の繋がりを強め荒波を乗り切っていこうと絆を深めることができた総会でした。

JIAS会員 大久保 信子

*次回総会は8月7日または8日予定(国立新美術館)です。

JIAS会員紹介～合縁奇縁～

江田 朋百香

EDA Tomoko 2011年入会

彼女の抽象作品はいつも知的で興味深い空間を表現している。これらの美しい作品はこの概念を想起させ、また様々な問い合わせを投げかける。「見る者に自問させる」—この芸術家の責務を、彼女は満たしている。次の作品を見たい衝動に駆り立てる作家である。

(パトリス・ド・ラ・ベリエール フランス仏美術雑誌 ユニペール・デ・ザール編集長)



-Message-

和紙も墨も日本人にとって馴染み深いものですがそれを使って現代的な要素を入れた抽象画を描く事に情熱を注いでいます。

墨は静謐でありながら躍動し、生きものの様に呼吸します。一瞬それに呼応したかと思う時の喜びは得難いもので、また今日も筆をとるのです。



キッショウ ミクストメディア

江崎 武春

EZAKI Takeharu 2012年入会

彼の作品の印象はアンダーだが、抑制されたトーンの間に精緻な技巧を見ることができる。我々の視点は作品下部の微光にひきつけられる。その光に導かれ、しだいに上部右へのぼっていく。

時間の経過と共に細部が浮かび上がり、作品全体にほのかに光が灯ったように錯覚する。引っ掻いたような作品の表情も極めて個性的。神秘的な作品を創り出す作家である。(ジャン・マリ・ザッキ)



-Message-

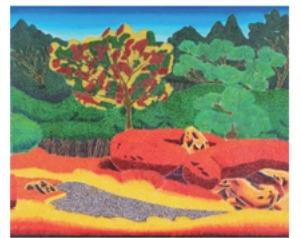
私は平成23年より、日本・フランス現代美術世界展やサロン・ドトヌ等へ毎年出品しています。

第13回日本・フランス現代美術世界展へ出品した拙作「閃光」について「東洋的、静けさがある。『詫び』『寂び』の世界」という寸評を頂きました。私は、東洋の精神を主軸とした絵画制作を展開したいと念じています。

大羽 裕也

OBA Yuya 2014年入会

OBA Yuyaの個性的なアクリルによる点描画。ひとつひとつは原色の無数の点と線が巧みに合わさり、光と影、凹と凸、曲線と直線、濃淡を表現している。空のブルー、樹々のグリーン、山々や大地の赤と黄。この3層が巧みに調和する甘美な風景画として魅せている。ブラボー！(ジャン・マリ・ザッキ)



和 アクリル



-Message-

私の風景画の原点は、熊野古道を旅行した時に目にした浜辺です。波の動きや木々の美しさを点描・線描で表現したいと思いました。

その他、動植物にも興味があり、形と質感に沿って、点描・線描で独自の世界観を出していきたいと考えています。その特性を活かしながら、色彩の調和と多様性についても追求したいと思います。



誰もいない部屋の喩縁 油彩

村瀬 順子

MURASE Junko 2014年入会

巧緻に計算された内装。洗練された描法。幾何学的な構成でシルレアリストイックに描く。家具や部屋の分割の構図、格子模様。限定されたシンプルな色使い。厳選されたオブジェが存在感のみを巧みに示唆する。ほんの少し開かれたドアがこの物語の「未完」性を語る。作品に提示された謎解きに、見る者は夢中になるに違いない。(シリヴィ・ケクラン サロン・ドトヌ会長)



-Message-

1975年に日本で初めてフェルメールの「窓辺で手紙を読む女」を見て、描くということの素晴らしさに感動し、原点となりました。描くことのできない20数年のブランクの間、私は焦り欲求が詰まった心の部屋にたくさんのモチーフ達を集めていました。それらが心の中で騒ぎ出し、今の私のテーマ「誰もいない部屋の喩縁」の始まりです。

岩原 訓代

IWAHARA Michiyo 2015年入会

彼女の作品には幾つかの特徴、彼女のインスピレーションの中心が描かれている。私は彼女の描く「夜会」というタイトルの具象画を気に入っている。その絵の中の人々は、その時代の衣装を着て舞台役者のようだ。芸術家として彼女は優れた創作能力を持ち合わせている。彼女は芸術家として優れた創作能力を持ち合わせている。(パトリス・ド・ラ・ベリエール)



夜会 混合



-Message-

創る楽しさ、何を作るか、数十年にわたり生け花を指導しております。いつもグラフィック作品を出品させていただいておりますが実は立体の作品を作ることが楽しいのです。

どんな材料でどのようなものを作るか、あれこれ考えておりますと眠れなくなりますが。



記憶の中から アクリル

林 陽子

HAYASHI Yoko 2014年入会

彼女の創り出す具象と抽象の間。青のワントーンのみで構成された巧みな作品。夢、記憶、感情、存在…まるで、潜在意識に呼びかけるような。幾度みてもつくる事なく。作品を覗き込むほど。

観る者は自分の持つ内的イメージに近づいていくだろう。(ジャン・マリ・ザッキ)



-Message-

心象風景を描いています。日常の中にあるものにヒントを得て、自分の内面を描いています。特に色彩にはこだわっており、自分の納得できる色になるまで何度も色を重ね、素材を変えたりして自分が伝えたい描写を探します。観る方がそれぞれに自由にイメージをふくらませて鑑賞頂けたらと思います。

Artiste #1

印象派ビジャボニスムの混濁!ドトーヌ作家

サ

ロン・ドトーヌ 2018 開催を現地パリにて共に祝う日本作家らの後学をかねた交流イベントとして、シルヴィ・ケクラン会長にアトリエ見学できる作家の紹介を依頼した。会長は喜び、「日本と日本芸術に理解が深い画家」と、アベル・フランク氏の連絡先を教えてくれた。早速、連絡をとった。彼もたいへん喜び、快諾してくれた。さらに、彼が出品する8月の「第19回日本・フランス現代美術世界展」会期中に日本を訪れると言う。ならばと、会う約束をした。そして8月、マイルドな印象の彼がニコニコしながら会場に現れた。1時間程話をすると「日本の全てが好きだ」とほほ笑んだ。その後、彼は興味深げに会場の1点1点を丁寧に見て廻った。2ヶ月後、パリで再会した彼は相変わらずの物腰で、我々を快くアトリエに迎え入れてくれた。



パリ中心から地下鉄で30分程の郊外にあるアトリエは工場地帯の一郭にある大きな集合住宅のような建物で、特に欧洲では古くよりそこかしこに見られる典型的な共同アトリエだ。

月1,000€の大き目の一部屋を、彼を含む3人のアーティストでシェアしている。「パリの真ん中である程度の広さを確保するのは難しい。パリからもそれ程遠くないからとても快適だ」と教えてくれた。

この共同アトリエは時代、時代の気鋭のアーティスト達が通り過ぎたという。室内を改めて見渡すと、芸術と対峙したであろう軌跡がそこかしこに残っていた。

彼はエコール・デ・ボザールで美術史や装飾芸術を学んだ後、画家となり、約30年描き続けている。若い時分には絵画教室で子供達を指導したこともあり、画家以外に演劇や興行の舞台演出も手掛ける。人物にはモデルがいるそうだが、風景や背景は記憶の中を描く。インド、日本、韓国などアジアに興味をもち、時間をみつけて旅をする。体験できることは率先してやる。仕事も含め日常、非常日の出来事全て、経験全てが彼の作品の題材となる。「好きなのは油絵。テーマはスペクタクルや旅、ダンス…が多いかな。」と相変わらず優しい口調で語ってくれた。

アベル・フランク APPERT Franck サロン・ドトーヌ作家



1981年ブルターニュ生まれ。画家である父のアトリエで創作を習う。キャンバスに踊る灰のラインと、魅惑的な色彩がひとつの美しい様を表現するために見事に調和し、我々に語りかける。アジア（主にインドと日本）への旅路から戻った彼は、東洋の街並みや風景の記憶をまるでジャーナリストのごとくキャンバスに描き込んだ。心象風景を描くラインと多彩なパレットのような作品は、観る人を旅へ誘う。

~「2015年 Marché d'Art de La Perrière」より~



画家 アベル・フランク

日本の全てが好きだ、
と微笑むアベル氏優しいアベル氏と作家団は和やかに
芸術交流を行った

45年に渡るサロン作家、国際作家との国際交流によって生まれた【アトリエ訪問】



JIAS/ 欧州美術クラブは長きに渡り海外展開連携イベントの一環として、文化交流を担う「現地協賛イベント」を企画・開催しています。中でも人気を博す「アトリエ訪問」は、海外の重鎮作家とJIASの間で培われた信頼関係により実現した研修のひとつです。初めて出会う異国の作家達を自らの「聖地」であり、独創性が生まれる制作現場《アトリエ》へ迎え入れ、惜しみなく教授してくれるアーティスト達。創作に対する姿勢を学び、芸術を生業とした日々の暮らしを肌で感じる、これほど稀有な機会は、国際作家として世界を視野に活動を続ける上で、大きな糧となることでしょう。

※ホームページにてアトリエ訪問レポートと写真が見られます

国際作家探訪記 サロン・ドトーヌ 作家紹介

フランス パリで古くは400年以上前に端を発すると言われる「サロン文化」を現代に継ぐ各サロン。今回は、中でも前衛傾向のコンテンポラリー・アートの中核的存在であり、国際画壇に新風を吹き込むような独創性が求められる公募展「サロン・ドトーヌ」で活躍する2人の作家をご紹介します。



Artiste #2

サロン・ドトーヌ
デッサン・水彩部門
プレジデント

じっと目を合わせ、ゆっくりと傾きながら笑顔で耳を傾ける。しかし、彼女が放つ優しさのオーラを超えて発せられる言葉や話は聰明性に富み、的確さを欠くことはない。彼女は名作文学の真髄を知り、また人間性を学ぶためにソルボンヌ大学をはじめいくつかの大学で人文科学を専攻。その後、ジャーナリストとして主に雑誌で仕事に明け暮れるが、いくら優秀な仲間と出会っても、いくら人々を魅了する経験を積んでも、「自分らしい生き方」とはならなかった。同じ時期、仕事と両立させながら、時間的にも感情的にもとてもハードな「ドローイング」のレッスンをうけ、毎日、仕事に出かける前に絵を描いた。するとある日、衝撃が走った。「芸術活動を生活の中心にすべきだ」と。その瞬間、芸術家ブルジュノ・ソフィーが誕生した。



自身の個展オープニング風景

画家 ブルジュノ・ソフィー

チリ出身の画家で彫刻家のホアン・ルイ・コンシノの愛情深い指導により基礎を学んでおり、彫刻の準備のためにデッサンの中に絶対に必要な、自身の根本となるものを見つけた。師は、芸術知識を増やし、「オート・エボック(Haute Epoque)」の表現力を身につけさせるために「自然」の見方を彼女に教授した。



自然と一体に…足元は裸足!!

その後、フィリップ・ヨルダンのもと、より多彩な芸術知識を積んだ彼女は、自然の美しさに魅了され、自然が放つ光と力強さの中に美しさを見出した。この感動を自らの手で、絵画で表現し、皆に知らしめたいと思った。「私だけでなく個人や社会にとって芸術は必要不可欠。芸術は自身が存在することへの不安や繊細さを「美しさ」に替えられる。自身を知り、乗り越え、次の一步を踏み出させ事ができる。」彼女なりのジャーナリズムがそこにあった。

ブルジュノ・ソフィー BOURGENOT Sophie サロン・ドトーヌ
デッサン・水彩部門プレジデント

葉の間から、また空の湯の間から生き物が顔を出し、絵の中の全てに動きを感じられる。全てが動き、だんだん大きく成長し、つぼみが開き、花が咲くこと願う。どんなカタチでも力である。最初の姿を隠した生き物は我々の目に見えない。見えないが存在しながら行く手を探し我々に会いにくるのだ。[~クロード・アンリ・ロク「ブルジュノ・ソフィのポートレート」より~](https://sophiebourgenot.com/claude-henri-rocqet/)
<https://sophiebourgenot.com/claude-henri-rocqet/>



2018東京の日本・フランス現代美術世界展にて、ケクラン会長と

第19回 日本・フランス現代美術世界展 ~サロン・ドトーヌ特別協賛~ (2018) 展覧会報告

2018.8.8~8.19 東京
国立新美術館 3A



国際交流の更なる可能性を求めて...国際作家にも門戸を開く世界展

今回より展示会場入り口壁一面に掲げた朱赤が目を引く大きな本展フラッグは来館者らを本会場へと説き、連日途切れる事なく、来場者を迎えていた。着物、タペストリー、屏風、水墨や書の軸装作品などの展覧から始まり13室を賑やかに彩った個性豊かで多種多彩な日本作品193名222点を中心に、フランス、オランダ、中国、アメリカの多国籍海外作品82点の総計304点の見事な展覧となつた。「国立新美術館」で7回目となる本展は、「日本における国際展」として国内はもとより海外でも注視されており、海外出品作家もより多く来日、本展を訪れた。

オープニングイベントの一環として催された講演会では、次回美術賞展開催地フィンランド・アラヤルヴィ市より市長ベサ氏、

現地総指揮官アルキオ女史が、この地を愛したフィンランドを代表する建築家アルトや画家ネリマルッカをはじめ、アートが大自然溢れる街から誕生し、人々の日々の暮らしに寄り添つてゐる旨を紹介した。来賓皆様より多くの祝辞賜り、JIAS/ 欧美代表 馬郡文平が本展開催への謝辞を述べた。オープニングイベントには、特に本展特別協賛フランス サロン・ドトーヌ関係者が積極的に参加、その数は20名を超え、皆賛辞を口にした。これまでのビュッフェスタイルから、談話交流を主としたカクテルスタイルに一新した今回、台風の接近にも関わらず、これまでの出席数を遥かにこえ、本展関係者、日本作家、海外作家総計180名超が一堂に会し、本展開催を心から祝した。



左から本展仮側名誉会長ジャン・マリ・ザッキ氏、サロン・ドトーヌ会長シルヴィ・ケクラン女史、サロン・ドトーヌデッサン部門プレジデントブルジュノ・ソフィー女史、協賛会社各社の皆様



サロン・ドトーヌ会長シルヴィ・ケクラン女史

アラヤルヴィ市長コイブネン・ベサ氏

現地総指揮官アルキオ・エリナ女史による《フィンランド西スオミ州南ボフヤンマーにおけるアートシーン》講演

第20回記念 日本・フランス現代美術世界展

記念すべき20回目の開催! 真の国際的派をを目指す作家に人気の国立新美術館での公募展。国際色豊かな展覧が話題!

■会期: 2019年8月7日(水)~18日(日)
※公募締切5月17日(金)

初出品歓迎。どなたでもご応募いただけます

5/17
公募受付締切

The 19th France-Japan Multinational Contemporary Art Exhibition 2018



国立新美術館は連日多くの来場者を迎えていた

寸評を熱心に聞き入る出品作家たち(8月9日の寸評会にて)

~2018年8月8日、9日
国立新美術館 3A展示室にて開催~

TOPICS>> 多彩なイベントを通して日本にいながら国際交流が実現

作家が自身の国際基準における立ち位置と向き合う寸評会



通訳を介し熱心にアドバイスを贈る講評者と、真摯に向こうう作家



9日(木)3A展示室にて作品を前に「寸評会」が開催。今回の講評者ケクラン会長、ザッキ氏、フィンランド展関係者は多大な熱意と準備をもって臨み、希望した作家それぞれに直面で熱心な寸評を贈った。



各国の芸術関係者が共に開催を祝したオープニング

8日(水)本展関係者、日本作家、海外作家総計180名を超える参加者でオープニングレセプションが開催。これまでのビュッフェスタイルから談話交流を主としたカクテルスタイルに一新したレセプションには、足元の悪い中過去最多の人数が参加。フランスからも出品作家20名以上が来日・参加し、日本の作家と交流を深めた。



前年度の受賞者は壇上にて表彰された



ル・サロン受賞者もザッキ氏より表彰

海外関係者がプレゼンターを務める表彰式

毎年、国内外の展覧会関係者がプレゼンターを務める表彰式。国内外の展覧会関係者がプレゼンターを務め、華やかに功績を称えます。表彰者(主に前年度関係展受賞者)ひとりひとりには、壇上にて、自身の作品画像を前に賞状や副賞が授与された。



日仏交流160周年
160^e Anniversaire
des relations
franco-japonaises



日仏交流160周年! 日本とフランスの更なる架け橋に

両国の外交関係樹立を可能にした1858年10月9日の日仏修好通商条約調印から160周年を迎えた2018年は「日仏交流160周年」にあたり、本展は日仏芸術の架け橋的展覧会であるとして、在日フランス大使館/アンスティチュ・フランス日本よりご後援をいただきました。

Report 第19回 日本・フランス現代美術世界展とオープニングイベントに参加して

岡崎市で活動する私が初出品したのは2001年岡崎のシビコにて開催された関連展の時でした。その時初めて故馬郡先生とボール・アムビュ会長にお会いし、雑談をした事が昨日のことのように懐かしく想い出されます。お二人より「期待しているから頑張れ」と大変有難い励ましの言葉をいただき、それを糧にして今も作品制作に励んでいます。何度も出品してきた本展ですが、今回は特別な想いで出品しました。私は9年前から人工透析を受けていますが様々な副作用が体中に現れ、一時は歩けなくなる程でした。7月には脊柱管狭窄症が発症し、さらに台風が接近する中での参加となりましたが、幸い無事に参加でき、サロン・ドトーヌのケクラン会長とお会いし、記念撮影した写真を「宝物」にし、「絵を描くために生きている」と神に感謝しながら、これからも自分の「美」を追及してまいります。

JIAS会員 井上裕幸 (かみかげいのうす)



多くの外国参加作家も駆けつけた

JIAS会員レポート

～第50回記念～ 欧美國際公募 スペイン美術賞展(2018) 展覧会報告



The 50th Japanese Today's Visual Arts Exhibition in Spain 2018

2018.5.28~6.10 アストゥリアス州ヒホン市
ヒホン市文化センター (旧王立歴史博物館)

国境をはるかに越えた異なる文化の人々が、心からの交流ができる美術賞展

日本とスペイン外交樹立150周年を迎えた記念すべき2018年、50回記念展となった「スペイン美術賞展」はアストゥリアス州アストゥリアス県ヒホン市「ヒホン文化センター(旧王立博物館)」にて、大勢の市民、メディア、市関係者に祝されながら盛大に幕を開けた。メイン会場には「ミニ個展部門」3~5点の連作を含む日本作家183名 253作品が、白を基調とした明るい内装と開放的な天井のもと展覧。同時に、海外でも評価の高い国際作家とその作品として、2018年を代表する新エコールドバリ浮世・絵美術家協会(NEPU)公認作家「NEPU代表作家」5名の作品も紹介された。現代日本アートを担う作家らの技法と多種多彩な表現の広がりに、文化・芸術にひときわめの高い学生や家族連れ、芸術愛好家たち観る者全てが一瞬にして目を奪われ、東洋からやって来た独創的な創造美をいつまでも魅入っていた。一般公開に際しては会場中央吹き抜けのステージにて、作家代表団より栗原光峰女史が書のデモンストレーションを魅せた。掲げられた織細で力強い作品に拍手は鳴り止まず、市民らの日本アートへの関心の深さを感じた。

ヒホン市庁舎を表敬訪問した折には、市関係者に熱い歓迎を受け、その様子は地元メディアに大きくとりあげられた。主催側を代表し

馬郡も現地メディアからインタビューを受け、本展趣旨、出品作家、文化交流イベントについて宣揚、会は大盛況の中、無事閉幕した。

今回、日本の芸術文化に特に関心の高い市民のために、市議会よりワークショップと講演会を要請された。日本作家代表団による「折り紙」「書」のワークショップ、「浮世絵」「現代日本建築」をテーマとした講演会は事前に希望者を募った人数制限、4時間入替制となり、展示会場内カンファレンスルームで催された。各回ともに子供連れからシニア層まで活気にあふれ、市民たちは、日本の芸術・文化に触れながら代表団との交流を楽しんだ。

《世界が称賛する“アーティスト支援活動”を視察》
この地方では古くより、自給自足生活を営み、澄み切った大自然の下でアーティストの制作を全面的にバックアップしている。この活動は世界に発信され、国際的にも大きな注目を集め、前衛アーティストを中心に国内外から多くの芸術家が集っている。同市では、プロジェクト・アーティスティック・カーサ・アントニオが運営する通称“PACA”として勢力的に活動している。

TOPICS>> 開催市からの熱い要望により実現した文化交流イベント

外交樹立150周年公式イベント!

フランシスコ・ザビエル以来、日本とスペインは400年以上前から友好を育んできました。日本とスペインの外交樹立150周年という記念すべき年に公式認定イベントとして開催された本展は外務省サイト等でも広く広報されました。

熱烈な歓迎を受けた作家代表団

作家代表団として32名が現地を訪問。市庁舎への表敬訪問、オープニング・セレモニーや交流イベントに参加し熱烈な歓迎をうけた。現地大学でも講演会を開催し、現地TV、新聞メディアからも取材が殺到し日々的に報道された。



日本スペイン外交関係樹立150周年公式認定イベント
在西日本国大使館 広報文化担当官 鈴木虎氏



関係者による白熱の寸評会

ヒホン市文化財団ディレクター ラケル女史、ヒホン国立美術館長ベラエス女史、美術史家兼美術展総指揮官アルドウエンゴ女史による複数回の寸評会が代表団ひとりひとりに贈られた。



欧美 JIAS 代表 馬郡による講演会

Report 第50回記念 欧美國際公募 スペイン美術賞展と現地協賛イベントに赴いて



作家代表団としての参加は初めてのスペイン、そして欧美主催の美術賞展50回記念ということで、何故か心ときめき、迷いを吹き切って参加しました。深夜2時に真っ暗な中到着ましたが、翌朝海岸に面した瀟洒なリゾートホテルとわかりました。市あげての歓待は、欧美の美術賞展ならではの素晴らしい経験でした。歓迎の熱さは、真っ白な壁面に、整然と展示がなされている会場に一步入るだけで分かりました。街で出会った市民の方ともてども親切で街を案内してくれたり、「日本の展覧会?もちろん知ってるよ。必ず観に行くから。」などと、広報も行き届いていると実感したものです。06年コルシカ展の時代と大きく変わった事は帰国後もFacebook等で交流が続けられるという事でしょうか。あんなに遠かったヒホンが身近にさえ感じられます。皆様も一度は出品作品がどのような街で展示されているか、自ら会いに行って頂きたいです。展示作品もじっくり鑑賞出来、同行の方ともすっかりお友達になり、素晴らしい現地訪問でした。



JIAS会員 船田 春光

ホテルに到着して目に飛び込んで来たのは息をのむ程に美しいビスケー湾の水平線です。道にはゴミ一つ落ちて無く、車も自転車も、整然としていてゴミ箱までも可愛らしくて美しい街!いかに街の人々がこの地を大切に思っているかが感じられ私も大好きになりました。展示会場は広く、格調高く気持ちの良いオープニングで始まりました。書のパフォーマンスでは会員の岸さんのハーモニカ演奏の故郷で始まり日本からの皆さんの歌声が会場に響きました。ワークショップで印象深かったのは沢山の参加者だったにもかかわらず、皆、秩序正しく好奇心豊かな方達ばかりだった事です。

JIAS会員 栗原 光峰

第32回 パリ国際サロン/ドローイングコンクール部門 展覧会 告知 32ème Salon International de Paris / Section Concours Drawing 2019



日仏友好160年!ジャポニスム2018に認定。パリで30年以上続く唯一無二の“サロン”

今年で第32回を迎える本展。公募部門、一般推薦部門のほか、作家の世界観が興味深いと近年好評のミニ個展部門にて、油彩、水彩、日本画、書、工芸など多種多彩な種別と独自の技法による総勢約270作品が2月に時期を移し開催されます。

ジャポニスム2018にも認定された本展は、開催にあわせ、パリの美術愛好家、アートに関心をもつパリジャンに向けた、オープニングレセプション、「書」デモストレーションなど文化交流オープニングイベントも開催予定です。

開催情報

会期：2019年2月7日（木）～2月10日（日） フランス パリ エスパス・コミニヌ / ギャラリー・デュ・マレ	ギャラリー・デュ・マレ Galerie du Marais 2月7日(木)～2月10日(日) 11:00～20:00	エスパス・コミニヌ Espace Communes 2月7日(木) 13:00～18:00 2月8日(金) 11:00～20:00 2月9日(土) 11:00～19:00 2月10日(日) 11:00～16:00
--	---	---

TOPICS>> 回を重ねるごとに話題を集める現地広報



SNSで紹介される個展作家
個展広報（カタログ/SNS）
フランス語で制作された個展カタログ

第51回 欧米国際公募 フィンランド美術賞展 2019 告知 "和 Wa" - kansainvälinen japanilaisen taiteen näyttely Alajärvelle

5月開催!



外交樹立100周年の記念すべき年に、日芬友好の美術賞展をアラヤルヴィで開催!!

開催情報

会期：2019年5月29日（水）～6月12日（水） 西スオミ州 南ボヤンマー県 アラヤルヴィ市

△ネリマルッカ・ムセオ △ヴィラ・ネリマルッカ △ヴィラ・ヴァイノラ △アラヤルヴィ市立図書館（予定）



美術賞展初のフィンランドでの開催！展覧会に先駆けて、去る2018年10月アラヤルヴィ市にて現地視察を行い、双方関係者が顔をあわせました。高い針葉樹林の森、クリーンな街、スッキリとして可愛らしいパステル調の建物。夜には市長主催のホームパーティにて手料理をいただきました。

短い時間ではありましたが、現地で、関係者の皆様と触れ合い、「大自然と人間の暮らしの調和」という日本とフィンランドの根源的な共通点をついた“和”というテーマは最適だと実感しました。現地協賛イベントではオープニングの他、現地小学校との交流会やアーティスト訪問など、様々なイベントも計画中です。

現地関係者より日本のアーティストの皆様へ



コイブニン・タパニ・ペサ
アラヤルヴィ市長
アルキオ・エリナ
美術賞展現地総指揮官

日本とフィンランドは2019年、外交樹立100周年を迎えます。両国にとってこの喜ばしい年に、私達の街「アラヤルヴィ」にて、このフィンランド美術賞展が開催されることは我々にとってこの上ない喜びです。早速、特別プロジェクトチームを立ち上げ、本展の成功に向けプロモーションすることをお約束します。
5月....森中の自然が一斉に芽吹く、最も美しいこの季節に、作品や、作家の皆様がこの地に訪れてくれる事を待ち遠しく思います。
我々アラヤルヴィ市民は、本展開催を心より望んでいます。

現地作成の
本展ロゴ





ル・サロン 2018 展覧会報告 (主催: フランス芸術家協会)

2018.2.13~2.18 フランス
パリ グラン・パレ

次回ル・サロン応募締切は2019年4月5日まで!
会期は19年秋もしくは20年2月頃予定



228回を数える「ル・サロン」 4日間で33,000名の来場者数を記録した

各サロンがキーカラーのカーペットで区分けされた会場内で、赤絨

毯上に展覧された第228回ル・サロン展。絵画・彫刻・版画・写真・建築部門合わせて30カ国から650名の国際的実力作家作品が「感動と共に」というテーマのもとに集結。さらに、「発掘、発見、驚き」というコピーを掲げ、現代アートで活躍する多くの有望作家作品を披露した。特にSPRAY Collectionによる特別展示が組まれ、まるでこれまでの伝統的現代アートに対照するかのように、ストリート・アートにスポットが当たられた。その他、部門別展示や関連イベントなど多くのプロジェクトは、今後の本サロンに新しい方向性を示唆した。

会期を11月から2月に移して大成功をおさめた昨年の勢いのまま、本年もエントランスホールのチケットカウンターには長蛇の列が見られた。珍しく雪の舞うパリの2月、世界の画壇を担う精銳の有望アーティストの作品5部門1,500点を一望できる熱気に満ちた本サロンに人足が途絶えることはなく、翌14日(水)から

18日(日)までの4日間の一般公開も含め、最終的に約33,000名の来場者数が公式発表された。

《今回の本サロン成功をうけ、ドゥラルフ会長 コメントより》
文字通り「現代的創造」に身を投じる今日のアーティストたち。
我々は「今日のアーティスト」の創作を紹介する。

いま、我々と同時代を生きているアーティスト!

芸術コレクター、ギャラリスト、メディア、美術愛好家はきっと、この同時代の画家、版画家、写真家、建築家達の脈動を肌で感じるとことだろう。

《ル・サロン事務局より》

ル・サロンは、何よりもまず透明性のあるアートの象徴であり、数多くのアーティスト達にチャンスを与える。既に知りわたった「伝統」の反復ではなく、プロフェッショナルな審査員に厳選された国際作家達の現代作品を、世界に発信する。

もちろん我々の理念である「伝統への敬意」、「アーティストの真摯さへの敬意」を決して忘れず、アートの有する「現代性」を庇護することが、我々の役割の一つなのだ。

Report ル・サロン2018 現地に赴いて

JIAS会員 益村 司

ル・サロンへの出品は初めてでしたので、パリに出向くことにしました。グラン・パレをブースに分け、4サロンが一堂に展示されていました。ベルニサージュでは小雪が舞う2月でしたが、会場内では熱気さえ感じられました。様々な国から出品がされ、日本からの作品は「和」を意識したものが多くみられました。外国の作品は傾向の偏らない多様な作品を同じ会場内で見ることができ、感動しきりでした。出品作品、舞楽「蘭陵王」はメンションを頂戴いたしました。関係各位に感謝申し上げます。



サロン・ドトーヌ 2018 展覧会報告 (主催: サロン・ドトーヌ協会)

2018.10.24~10.28 フランス
パリ シャンゼリゼ通り特設会場

次回サロン・ドトーヌ応募締切は2019年2月15日(金)まで!
会期は19年10月中旬予定



ますます世界の芸術家たちが集うサロン・ドトーヌ。日本作家への期待も膨らむ

会期初日、パリ・シャンゼリゼ通りに設定された大きな純白のパビリオンの扉が開くと同時にサロン・ドトーヌ協会招待客20ヶ国以上の各国大使が次々と来場した。シルヴィ・ケクラン会長と共に、光栄にも大使のアテンドを仰せつかった欧米スタッフは、在フランス日本大使館木寺昌人特命大使、パリ日本文化会館杉浦勉館長とともに世界中から集結した気鋭の現代作家の最新作を堪能した。日仏美術史への造形も深く、ドトーヌ作家からの信頼も篤い大使は、歓待するドトーヌ役員らの熱心な説明に懇意に耳を傾けながら、日本作品には、初出品作家作品は興味深く見入り、常連作家の新作には深く感心したりと、特に丁寧に回覧された。絵画部門プレジデントローベル・モレル氏からは「本年の日本作品はいずれのテクニックでも非常に質が高く、選考は良い意味でとても難しかった。出品作家の皆さんを心より祝福します。」とのコメントをいただき、他にも長年日本作品を見続けてきた同プレジデントブッシュ・ジャン=ベルナール氏、事務局ポール・ギュワ氏からも本年の作品群の質の高さを称赞するコメントが寄せられた。

日本からは17名の作家代表団が訪問。ケクラン会長をはじめとするドトーヌ作家や来場者と開催を喜び、親交を温めた。時が過ぎるにつれ来場者は増え続け、8時過ぎのケクラン会長のスピーチで会場の気勢は最高潮に達した。スピーチでは、毎年、国立新美術館で開催される「日本・フランス現代美術世界展」を紹介。日仏現代作家の共演、さらに今夏は20名程のドトーヌ作家も来場、日本作家と交流を楽しみ、本願である異文化アーティストの交流の具現化を報告、満場の來場者と喜びを分け合った。

現地協賛イベントでは、ドトーヌ絵画部門プレジデントルフオーラ・ティエリ氏の個展を訪問。デッサン・水彩部門プレジデントブルジュノ・ソフィ女史も同席し、日本・フランスでの創作活動、芸術観の違いなどについて懇談した。後日、ドトーヌ会場にて、ルフオーラ氏は交流を以下のように振り返った。「日本作家との出会いは、作家としてとても刺激的な体験となりました。異文化交流のもたらすダイナミズムは、他のドトーヌ作家にとっても新しい展開につながる貴重な機会となるでしょう。」

「日本との交流はドトーヌ発足以来100年以上続いております。アートを通じた日本との芸術交流、また、優れた日本作品を世界に発信し続けることは、もはやサロン・ドトーヌのひとつの伝統となっております。皆様のおかげで今年もまたこの伝統を引き継ぐことが出来、光栄に思います。創作は孤独ですが、サロン・ドトーヌはいつも作家が家族でいられる“家”でありたい。」作家同士のコミュニティ「—この理念を世界に広めたい。このよだいへん名誉に思っております。」シルヴィ・ケクラン会長(サロン・ドトーヌ ベルニサージュでのスピーチより)



「VIPベルニサージュ」には20ヵ国を超える駐仏大使が来訪した

木寺昌人日本国大使も日本人作品一点一点を丁寧に鑑賞

現地協賛イベントに参加した日本作家団

Report サロン・ドトーヌ2018 現地に赴いて

JIAS会員 べい 米翔

来場者数の多さに圧倒される中、これだけの支持を得ている本展の美術の歴史への役割は極めて大きいと思わざるを得ませんでした。サロン・ドトーヌで、創造性・革新性・ダイナミックさなどを取り入れた作風や作品の多種な描法に触れることが、新たな作品を生む私の原動力にもなっています。今年もイベント・ブースで「Concert De Salsa」、「Defile De Mode」などが催されました。美術と友好を結びつけようとする努力から生まれる親近性もまた人々の心を本展へ惹きつける一助となっているのでしょうか。



2019年活動スケジュール

JIAS海外活動

※予定事項は変更になる場合もございます

- 第32回パリ国際サロン（JIAS協賛）

於：（パリ市）ギャラリー・デュ・マレ、エスパス・コミニヌ
会期：2019年2月7日（木）～2月10日（日）
- 第51回欧米国際公募 フィンランド美術賞展（JIAS共催）

於：フィンランド西オスマ州南ボフヤンマー県アラヤルヴィ市
ネリマルッカ・ムセオ、他複数会場予定
会期：2019年5月29日（木）～6月12日（水）予定
- <その他 JIAS関連活動>
 - ル・サロン2019（主催：フランス芸術家協会）

於：パリ市 グラン・パレ
会期：2019年2月12日（火）～17日（日）予定
※ル・サロン2020（国内応募締切：2019/4/5迄）
 - サロン・ドトース2019（主催：サロン・ドトース協会）

於：パリ市 シャンゼリゼ通り 特設会場
会期：2019年10月中旬頃予定
※サロン・ドトース2019（国内応募締切：2019/2/15迄）
 - NEPU活動
NEPU代表作家の国内外広報、海外での講演会活動

JIAS国内活動

- 第20回日本・フランス現代美術世界展（JIAS主催）

於：東京 六本木 国立新美術館 3A展示室
会期：2019年8月7日（水）～8月18日（日）
公募締切：2019年5月17日（金）予定
- JIAS2019年総会

於：東京 六本木 国立新美術館内予定
会期：2019年8月7日（水）または8日（木）予定
- JIAS/ 欧州美術クラブホームページ運営・管理ほか

2019NEPU代表作家 Les représentants UKIYO-É 2019

前年新工コールドバリ浮世・絵美術家協会（NEPU）が協賛する展覧会にてNEPU賞受賞作家は、翌年度のNEPU公認代表作家として、1年間、国内外にて広報および出品招待されます。19年NEPU代表作家には下記3名が選出されました。



国内外展出品招待

インタビュー記事の掲載

代表作家としての広報

★機関紙へのご協力お待ちしております。
ご覧、感想、取り上げて欲しい企画など、お気軽にお寄せください。

編集後記

●まずはザッキ先生おめでとうございます。さすがです。本紙に語って頂いたお言葉に思わず涙を正しました。またJIAS会員として胸の熱くなる思いです。ところで皆さん、機関誌の表紙が変わりました。恥ずかしながら私も今回初めて知ったのですが、JIASロゴの由来を見ると、ここにも一つ、襟を正し熱い思いを噛みしめるものがあると思いました。坂本龍彦 2018年1月17日

●昨年同様、JIASの向かう方向性をより明確に見せられるよう意識しながら、編集長とともに制作しました。過去の資料を引っ張り出し、設立当初の強い志の記事を読むと、身が引き締みました。

個人としての作家活動だけでなく、会としてもどこまで躍動できるの

JIAS新会員紹介（2019年入会）

日本芸術を愛する世界の愛好家と、国際派として芸術を世界へ発信するアーティストの架け橋となるべく活動を続けるJIASに、17名の新会員が入会しました。新しい風となって、JIASのさらなる発展に期待が持たれます。

元心／畠山 法子／姫山 さち／川端 三賀／岸 甫／小林 翔己／益村 司／森川 真理子／中屋敷 雅也／小畑 敏子／大槻 小百合／四釜 史江／高梨 美幸／津田 みちる／渡邊 敏子／山本 智子／吉岡 徹（17名 敬称略）

チャリティー・プロジェクト報告

陸前高田の絵の好きなこども達へ画材を贈る

2018年8月、国立新美術館にて主催した「第19回日本・フランス現代美術世界展」受付にて募金箱設置。社会福祉法人陸前高田保育協会を介して￥68,650円の寄付より5力所の保育園にスケッチブックを寄贈しました。2011年から継続的に続けているこの活動に、今後も皆様のあたたかいご支援をお待ちしております。



【陸前高田の絵の好きなこどもたちに画材を送るプロジェクト】

銀行振込・郵便振替・現金書留にてお預けしております

★銀行振込：みずほ銀行 日本橋支店

普 1634027 口座名 欧州美術クラブ

●三菱東京UFJ銀行 日本橋支店

普 0128429 口座名 欧州美術クラブ

★郵便振替：記号 10100 （番号）77876481 欧州美術クラブ

★現金書留：欧州美術クラブ「陸前高田の絵の好きなこどもたちに画材を送るプロジェクト」係宛



会員個々の活動紹介

JIAS日本国際美術家協会のホームページ「会員個々の活動報告」欄にて、会員の個展等の告知・広報が可能です。

個展開催の2～3週間前までに事務局へ掲載希望の旨、をお知らせいただけますと、無料で掲載が可能です。どうぞご活用ください。



JIAS機関紙がホームページからも閲覧可能となりました。



か。。。事務局スタッフとしてもみなさまと一緒に、情報や思いを共有できるよう努めさせていただきます。（事務局・T）

●昨年12月、多くの人が「災」害を忘れないこと心刻んだ年として2018年を表す漢字一文字に「災」が選ばれました。文字どおり日本だけでなく世界中が自然災害に見舞われた年でした。8月の世界展では台風上陸でオープニングが危ぶまれる事態がありました。幸いにも自身が災いを被る事はありませんでしたが、何もできない自分を情けなく感じました。でも、展覧会ごとに集まる作品群を目にすると勇気をもらいます。芸術ってすごいと。今年も楽しみです。（事務局・A）

資料請求

ご出品について

本誌に掲載の各種公募展へご応募・出品をご希望の方は、ホームページまたはお電話等にて、お気軽に規約・資料をご請求ください（無料）。お問い合わせはJIAS事務局まで。

